



天田昭次先生

を偲んで

去る6月26日、人間国宝で刀匠の天田昭次先生が御逝去なさいました。

享年86歳で、生涯刀剣づくり一筋に捧げられた見事な人生でした。

日本刀の特徴は、「折れず、曲がらず、よく切れる」ことです。

しかし、この「折れない」という事と「曲がらない」という事は相反する要件でもあります。

曲がらないものは折れやすいからです。

その相反する要件を実現するのが、異質の鉄の組み合わせと、繰り返しの鍛錬なのです。

すなわち、日本刀の強靱さは、炭素量の少ない柔らかな鉄を、炭素量の多い硬い鉄で包んでいる構造からなり、それを何度も何度も繰り返して鍛え、パイの様に何重もの層にしてゆく事で生まれるのです。火床の中で、鉄の結晶構造が変わるまで720度で熱し、それを叩いて練り上げてゆくという作業を繰り返しながら「折れず、曲がらず、よく切れる」刀へと仕上げられてゆく訳です。

その過程の中で、1kgの刀に仕上げるには、12～13kgの鉄が必要で鍛錬の過程で9割以上の不純物を全て叩き出す作業を、渾身のエネルギーを注ぎ込んで繰り返す作業が刀匠には求められるのです。

天田先生は砂鉄を含んだ石を河原から集めてきて、それを溶かして鉄を作る根気のいる地味な工程も自分でやっておられた希有な刀匠でした。

その「自家製鉄」を用いて鎌倉時代の鍛法を、生涯に渡り探究された方です。

刀剣界の最高の賞である「正宗賞」を三度に渡り受

賞され、伊勢神宮式年遷宮御神宝大刀も三度奉納されておられ、まさに日本刀剣界の最高峰におられた方でした。

私は縁あって20年以上にわたりお付き合いをさせて頂きました。

年に数度しかお会いする事はありませんでしたが、いつお会いしても常に穏やかで、一言一句言葉を選んで語られるそのお人柄に、人間的にも学ぶところの多い方でした。

天田先生亡き後も、先生の作品は永く残ってゆき今後、益々その評価が高くなってゆかれる刀匠だと思いますが、「一道」を極められた方の、心、技、体、三位一体の極を、後世の人々が感じとってゆく事と確信しています。

天田先生の御冥福をお祈り致します。

合掌

徳真会グループ
理事長 松村 博史